

環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事		2019年 7月 7日
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都府京田辺市大住立原1の1		氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 株式会社明治 京都工場 工場長 中条 純平 0774-62-3161
環境マネジメントシステムの名称	ISO14001:2004、JISQ14001:2004	
適用範囲	乳飲料、発酵乳、コーヒー飲料、清涼飲料水及び凍結乳酸菌の製造	
導入年月日	1998年 12月 21日	
認証番号	1074455-3721576	
基本方針	<p>【環境理念】 私たち明治グループは、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。そのために、地球環境と事業活動との調和を図り、環境に配慮した企業経営を推進していきます。</p> <p>【環境方針】 明治グループは、明治グループ理念および明治グループ環境理念を実現するために、以下の環境方針に従って事業活動を展開します。</p> <p>法令遵守 1. 国内外の環境にかかわる法令、条例、ステークホルダーとの協定、業界規範、自主基準を遵守します。</p> <p>環境保全活動のスパイラルアップ 2. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的な改善を図ります。</p> <p>環境負荷低減 3. 商品の設計から廃棄に至るライフサイクル全般及びあらゆる事業活動において、生産性の向上、省資源、省エネルギーを推進し、環境負荷低減を図ります。</p> <p>生物多様性の保全 4. あらゆる事業活動において、グローバルな視野を持って生態系に配慮し、生物多様性の保全に努めます。</p> <p>環境マインドの醸成 5. 自然を敬い、自ら進んで環境を考え行動する従業員を育成し、環境理念の実現を図ります。</p> <p>社会との共生及びコミュニケーション 6. 社会との対話や、環境活動への参画により、社会との共生を図ります。また、環境情報を適切に開示し、社会とのコミュニケーションを図ります。</p>	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。)	<p>2018年度目標(殺菌乳量換算)</p> <p>①電力使用量17年度比2%削減 ②ガス使用量17年度比2%削減 ③水使用量17年度比2%削減 ④産業廃棄物17年度比2%削減 ⑤CO2排出量17年度比2%削減</p>	
目標を達成するための取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産ライン安定稼働・稼働率向上によるエネルギー使用量削減</li> <li>・廃棄原料の削減による環境負荷低減</li> <li>・配送車の配送効率化によるCO2排出量削減</li> <li>・洗浄工程の見直しによる水の使用量削減</li> <li>・自然冷媒を使用した過冷却設備の導入</li> <li>・アイスビルダーの蒸発温度適正化</li> </ul>	
目標を達成するための取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産ライン安定稼働・稼働率向上によるエネルギー使用量削減</li> <li>→継続取組中</li> <li>・廃棄原料の削減による環境負荷低減</li> <li>→継続取組中</li> <li>・配送車の配送効率化によるCO2排出量削減</li> <li>→継続運用中</li> <li>・洗浄工程の見直しによる水の使用量削減</li> <li>→継続取組中</li> <li>・自然冷媒を使用した過冷却設備の導入</li> <li>→導入済</li> <li>・アイスビルダーの蒸発温度適正化</li> <li>→継続取組・成果評価中</li> </ul>	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	<p>2018年度目標成果(殺菌乳量換算)</p> <p>①電力使用量17年度比2%削減→6.1%削減 ②ガス使用量17年度比2%削減→26.9%削減 ③水使用量17年度比2%削減→13.9%削減 ④産業廃棄物17年度比2%削減→21.8%削減 ⑤CO2排出量17年度比2%削減→23%削減</p> <p>老朽化設備の停止や更新、稼働率向上・省エネ対策の実施により全て削減という結果になった。</p>	
事業活動に係る法令の遵守の状況	毎年、内部監査を実施している。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	<p>目標設定し削減に取り組み、製造ラインの新・増設、変更等がありながら目標達成が出来た。</p> <p>【見直し内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産稼働率の向上(超安定稼働)を継続的に取り組む。</li> <li>・洗浄工程の更なる見直しによる水、洗剤の使用量削減を積極的に実施する。</li> <li>・熱交換器・タンクジャケットの冷却水使用量を見直す。</li> <li>・廃棄物の分別教育を実施する。</li> </ul>	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。